

撮影者(上から)

1. 飯田 卓
2. 梅棹 忠夫 3. 石毛 直道

地域研究画像
デジタルライブラリ

DiPLAS

新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』



「地域研究画像デジタルライブラリ」 公募プロジェクト

フィールドワークで蓄積された写真資料をデジタル化・データベース化し、研究に活用できるプラットフォームを提供します。

令和3年度
募集開始

申請期限: 令和3年6月4日[金]

日本の研究者が世界各地で調査するさいに撮影した写真や動画などの画像資料は、調査当時の実態を記録した研究資源であると同時に、日本の学術史を反映する学術遺産でもあります。

この事業は、世界諸地域を対象として現在進行中の科学研究費助成事業のプロジェクトを対象に、これまでに蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を支援し、将来にわたる研究情報の集積と共有化の基盤を整備して提供するものです。

この事業の実施にあたって、進行中の科研費採択者を対象に広く公募をおこないます。

採択されたプロジェクトに対しては、写真・映像資料の整理、デジタル化とデータベース化を進め、さらには画像内容に関わるテキスト情報の入力の実支援もおこなうことで、研究に活用できるデジタルデータのプラットフォームを作成して提供します。また、関係法令や現地の慣例に照らして公開可能な画像については、国際的な共有化をはかり、分野の別を超えたオープンサイエンスの基盤を構築していきます。

皆さまの応募をお待ち申し上げます。

研究支援代表者 吉田 憲司(国立民族学博物館・館長)

この事業の目的は、現在進行中の科研費プロジェクトを対象として蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を支援し、研究の格段の進展を促すことにあります。

公募プロジェクトに対する支援内容

採択されたプロジェクトの代表者が所有・保管または活用の依頼を受けている写真資料に対して、利用許諾に関する手続きを行ったうえで、デジタル化・データベース化を進め、AI（画像内容の自動認識機能等）も活用しつつ、地域研究に有用な基本情報（テキスト）を付加して返却します。このデータベースは逐次、情報を付加・充実できる仕様とし、支援期間の終了後も継続的に学術研究の展開に活用できるものとします。

対象となる資料

支援を受ける科研費プロジェクトの研究代表者あるいは研究分担者が自身で撮影したもの、ならびに所有・保管または活用の依頼を受けている写真資料（乾板、ネガ、ポジ、デジタル画像。プリントは除く）。なお、写真資料はデジタル化作業後に返却します。

申請の手続き

● 応募書類

申請は所定の様式による申請書を提出してください。申請書は、地域研究画像デジタルライブラリのホームページからダウンロードできます。

<http://diplas.jp/requirements.html>

申請書には、支援を受ける科研費プロジェクトの研究計画調書の写しを添付してください。また、**内容がわかる画像サンプル**を少なくとも1点添付してください。

● 申請期限

令和3年6月4日（金）までに申請書と計画調書の写し、画像サンプルを提出してください。

（郵送の場合は必着、メールの場合は16時30分までに送信してください。）

● 提出先および問い合わせ先

〒565-8511大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館研究協力課研究協力係
Tel: 06-6878-8209
e-mail: kaken@minpaku.ac.jp

● スケジュール

申請期限：令和3年6月4日（金）

▼公募プロジェクト審査委員会において採択課題を決定

▼採択決定：令和3年6月末

▼採択されたプロジェクトの代表者に対するワークショップ：7月初旬に開催予定

▼写真資料のデジタル化・データベース化作業

▼成果の報告と情報の共有化に関わる会合：年度末に開催予定

公募については、「地域研究画像デジタルライブラリ」ホームページに、さらに詳しい内容を記載しています。ホームページもご確認ください。
<http://diplas.jp/requirements.html>



応募資格

公募年度において進行中の、地域研究に関わる科研費プロジェクト（研究成果公開促進費のプロジェクトを除く）の研究代表者、**および研究分担者（ただし研究代表者の承諾を得ていること）**。ここで言う地域研究とは、科研費に応募する際の審査区分ではなく、地域研究や関連する手法によって国内外の各地域を対象とする研究プロジェクトを指します。**応募資格の詳細につきましては公募要領をご確認ください。**

研究支援期間と支援件数

採択された年度末までの単年度。年度内に、データベースを提供します。

支援件数は年間計15件程度。いずれのカテゴリーにおいても、写真資料の点数は原則として5,000点以下とします。

カテゴリーA:

写真資料（ガラス乾板、ネガ、ポジなど）のデジタル化とテキスト情報の入力支援を必要とするもの

カテゴリーB:

写真資料（ガラス乾板、ネガ、ポジなど）のデジタル化を必要とするが、テキスト情報の入力は申請者自身がおこなうもの

カテゴリーC:

フィルムやガラス乾板などの資料を含まず、すでにデジタル化されている画像のデータベース化だけを必要とするもの



提供しているデータベースの例
DiPLAS 松原正毅「ユーラシア遊牧社会コレクション」より

《科学研究費助成事業名》

新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』研究基盤リソース支援プログラム『地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化』（課題番号:16H06281 中核機関:国立民族学博物館）支援機能名は地域研究画像デジタルライブラリ（略称DiPLAS）